



はくめい

第2号

2008年夏

明治大学校友会
柏地域支部会報

発行 : 明治大学校友会千葉県西部支部柏地域支部

〒277-0027 千葉県柏市中新宿 1-2-21

04-7173-7301

発行人 : 宇都宮幸正

P1_ 第六回総会報告、全国校友会広島大会に参加して(猪瀬主税)

P4_ 「紫紺館」雑感(山田研一)
東京六大学野球春季リーグ戦八季ぶりの優勝、催しのお知らせ他

P3_ 私の履歴書(平賀陸太)

第六回総会報告

五月十七日(土)プラザインアム柏において第六回柏地域支部総会が開催されました。支部長挨拶、来賓紹介、祝辞に続き、出席状況を確認して総会の成立を確認した後、平成十九年度活動報告、平成二十年度事業計画予算案が承認され、役員を選出では



宇都宮幹事長が新支部長に、加茂幹

事が新幹事長に就任し、その他の役

員は全員留任、新たに三名の幹事の

追加が承認され、以上の新体制で臨

むことになりました。

続いて開かれた懇親会では明治大

学OB交響楽団の生演奏を聴きなが

らの新会員の紹介もあり、和やかな

雰囲気の中で会員どうしの親交を深

めました。

総会・懇親会の内容についてはホ

ムページでも詳しく説明しています。

明治大学 校友会 柏で検索でき

ます。ぜひご覧ください

全国校友会広島大会に参加して



柏地域支部長
猪瀬主税

十一月四日(月)天高く馬肥える
秋空は、抜けるような碧さが広がっ
ている。国内の空の玄関羽田空港は、
三連休の中日といつこともあって、

混雑と騒音の渦の中だ。少々遅れ

はしたが無事広島空港に向かって

離陸した。成田空港からの国際線

では、富士山は何時も右側に見え

るが、今日は左側に見える。雪景色

の帽子を覆った富士山は、殊の外清

々しい。同席の宇都宮さんと駄弁

リングを楽しんでいる間に間もな

く広島空港到着「のアナウンスが流

れて来た。昔の空港は、太田川の河

口にあったが、今は中国山脈の大地

にできた新しい空港に変わっている。

タラップを下りると、紫紺のカラ

に彩られた全国校友会広島大会の囃

り竿が目に入ってきた。要所要所に

幟を持った方々が、空港バス乗車口

まで案内してくれた。車内で話して

いるお国言葉から、殆どの方が校友

会出席の仲間であることが分る。車

窓から見る広島市街は、モノイル

が走り、高層ビルが立ち並び、人口

一〇〇万の政令指定都市に相応し

い景観だ。市の中心街、終点の紙屋

町そここう会館に到着する。会場は

全国でもトップクラスの品格を誇る

リーガロイヤルホテル広島だ。変わっ

ていないのは隣接する広島市民球場くらいかな。

一階ロビーは人影も疎らで静まり返っている。端正な身なりのフロアーマンに案内されて会場に向う。此方は一階ロビーの静けさと対照的に、熾竿とムビ姿の広島校友会の方々が多忙を極めた世話役を努めている。受付中の方々、受付を済ませた校友で広いロビーも満杯だ。

久しぶりの再会に握手をする者、肩をたたき合って喜んでる者、挨拶の仕方は様々だが、校友という意識を共有している者どつしの賑やかな笑い声の輪が幾つも出来ている。

このホテル(当時は広島グランドホテル)は今でも忘れられない記憶の中にある。昭和五十一年広島市に中国五県、四国四県を統括する支店建設を命じられた。建設側の責任者が(株)鹿島の広島支店営業部長水戸川勉さんだった。打合せを繰返している中に、御互い校友である事に気付き、先輩後輩を名乗るのに時間はかからなかった。仕事も

順調に進み、そして其の時が来た。

昭和五十三年五月(株)鹿島の鹿島正一社長、当社の上原正吉社長出席の下、中国五県、四国四県の主たる取引先、マツコミ、政財界の関係者を招待して、盛大な披露パーティーが行われ、初代支店長として紹介された。サラリーマンとして初めて城持ち大名として第一歩を踏み出すことになった。披露パーティーは本日の会場「リーガロイヤルホテル広島」だった。

あれから三十年お互いに現役を引退し白髪は増えたが第四十三回校友会全国大会の主役広島県支部長水戸川勉さんと再会することになった。

午後一時定刻一五〇〇名を飲み込んだメインホールで広島大会の開会が宣言された。三年前から県下の地域支部を訪ね、全国大会の会場に顔を出して、広島大会への参加を願っていた苦勞が思い出される。満杯になった会場の壇上で挨拶する姿には「やるべきことは総てやった。」と云う誇りと安堵の笑

みがあった。特に注目されたのは、武田孟、佐々木吉朗、斉藤正直氏三人の学長、総長を排出した支部であると言った事だった。

来賓として広島県副知事、広島市長、東京六大学広島OB会の代表が祝辞を述べて下さった。

大学側は理事長、学長を初め四十五名が出席し、恰も駿河台が広島に移転した感があった。懇親会に入って演題「笑つ門には福来たる」ではOBである三遊亭小遊三のテレビで見た顔の落語で笑い、勇壮な郷土芸能山王神楽で楽しい一時を過ごすことが出来た。

今回は式典、懇親会共、テレビでお馴染みのOBアナウンサーが精一杯盛り上げてくれたのも印象に残った。肩を組み、手を繋いで「白雲なびく駿河台…」を歌い、心の温もりを感じながら思い出のホテルをあとにしたときは、もう八時をまわっていた。

近くのビジネスホテルに移動し、宇都宮さんと広島大会の運営について話し合っている中に、眠気が催

してきた。今朝五時に我が家を出てから、もう一七時間、眠気も健康の印かも知れない。

人は誰でも古里を忘れることはありません。人は誰でも母校を忘れることはありません。多くの会員の皆さんが此の雰囲気、熱気を目で耳で肌で感じてほしいと思いましたが。

地域支部長 猪瀬主税
(猪瀬氏は、二十年の総会で地域支部長を退任されました)



私の履歴書



昭和46年法卒
平賀陸太

私の発病は明治大学の2年生だった十九歳のころでした。東京武蔵野病院精神科に受診、即入院となりました。診断は統合失調症でしたが、幻覚妄想はありませんでした。入院生活は薬物治療と療養で二ヶ月。和やかな入院生活で回復を果たしました。その後、復学、卒業し、父の勧めで、学校法人広池学園 鹿澤大学の職員になりました。

この学校は道徳教育が盛んな学校です。最初に配属されたのは編集部。しかし服薬の影響で仕事の理解が遅い会議中に居眠りするなど問題を抱えていました。三年目に、薬を勝手にやめて再発、入院しました。
一ヶ月後に退院すると、施設課と一つ学園の植木や花壇の管理をする

仕事に左遷されました。

二年後、校内の診療所の医師が寛解と診断し、今度は図書館に配属されました。このころ京都の老舗の食品メーカーの娘と見合い結婚し、一男をもうけました。当時、図書館は本の管理をコンピュータ化する過渡期でした。図書館には十二年勤めましたが、私はその流れにもつまづいていけませんでした。

そのころ、家内が原発性肺高血圧症という難病と診断されました。特效薬も治療法もなく短ければ一年、長くとも三年しか生きられないといふのです。仕事をやめ看病に専念しようと思いましたが、「仕事はやめるな。企業と比較したら、学校はそんなに厳しくない場所」といつ父の説得で頑張ることにしました。

妻には実家の京都で療養してもらい私は仕事を続けました。妻は五年間生きることができ、五十二歳で亡くなりました。この間、当時十一歳だった息子の育てを一人でした。中学二年生で母親を亡くし、一時は不登校になりました息子ですが今は元気

な大学生です。

私は二〇〇三年に、早期退職を勧告され、五十五歳で定年前に退職しました。退職金には割増という温情がありました。私はコンピュータも使えず、動作も機敏ではなく役立たなくて申し訳なかったと思っています。

でも私はいつも人間関係に恵まれていて、学生時代の友達や私を影から応援してくれる上司などもいました。私は、空気や水がそこにあるという当たり前のこと、優しい両親のいる家庭で育ったことなどを、いつもありがたいと感謝します。仕事では役職につかなかつたけれど、結婚もし、家内も家内の両親も支えてくれました。息子を妻と大事に育てました。息子が教わることも多かった。一人で子育てした時は大変でしたが、今思えば苦しい時期も大切な思い出です。

今は仕事をやめてすっきりしました。悠々自適です。勤続したので共済年金もあり経済的にも安定しています。仕事のストレスがなくなり、薬も減り頭もクリアに働くよつになりました。当時は左遷だと思った施設課の仕事

も、外に出て太陽を浴びて土や花に触れたという意味で貴重な経験でした。

ずっと働き続けてきて、本当によかつたと思うのです。

昭和四十六年法卒 平賀陸太
この文章は二〇〇七年二月精神障害者の雑誌「シヨブメンター」創刊号に「三十二年間働き続けて、退職。今が人生で一番幸せな時です。」というタイトルで記載されたものに、本人が加筆したものです。()



「紫紺館」雑感



昭和 52 年法卒
山田研一

平成十八年十二月十八日に校友会創立百二十周年を記念して、小川町校舎の跡に校友会のセンターとして「紫紺館」が完成した。

私が本校に通うようになったのは、昭和五十年四月から、教養課程の和泉校舎からようやく、「天下に冠たる明治大学の本校で講義が受けられる」という思いは、今にすれば気恥ずかしくなるほど嬉しかった。今の学生たちの講義は、リバテーターで全学部が講義を受けるようになっていたのだが、当時は、各学部が分かれた建物で講義を受けていて、私は十号館と本館の大教室を行き来していた。小川町校舎は明大通りを挟んで、本校から離れたところにあり少し異質な感じがし

た校舎だった。加えて、何に使われているのかよく判らなかつた。

今ならば、もともとこの一角まで明治大学の敷地であり、大学前の明大通りの拡張工事で、残された残地の画との予想もできるが、当時は何でここにあるのか不思議な思いがしていた。遠きもの疎し、近きもの親しきの言葉にあるよう、疎遠な建物だった。

その建物が、近く親しくなつたのは、この校舎の二階に日本でも類を見ない「刑事博物館」があることを知ったときからだ。日本で使用していた十手、刺す又、そろばん板、ヨーロップで使用された人形型の棺おけの形をした「鉄の処女」、ギロチン台、絞首刑台すべてレプリカと表示されていたが、なかなか見こたえがあった。当時「刑事政策」を受講していて、又、死刑廃止論が話題になつていた時なので、講義の合間にちよくちよくのぞぎに行った。

そんな時にゴツツイ体格の学生がとことこ階段を上つて行くのにお目にかかることがあり、土曜日の

午後はさらに社会人のような人に出会うときがあった。その中に東京オリンピックで銀メダルを取つた神永さんの姿を見かけたことがあった。なんと、五階か四階かは忘れたが、柔道の道場があつたのだ。当時の明治の柔道は強かつた。卒業後活躍した軽量級オリンピック金メダリストの川口さん、無差別級で活躍した上村さんなどがきつとこの道場で、稽古をしていたと思うと、凄いなーと感じたことを思い浮かべる。

刑事博物館は、その後アカデミーコモンの地下に「明治大学博物館」として生まれ変わった。さて柔道部の道場はどこに行つたのか、聞いて見たい気もする。

昭和五十二年法学部卒 山田研一

東京六大学野球春季リーグ戦 八季ぶりの優勝

五月二七日に神宮球場で明大が法大を下し、勝ち点五の完全優勝で八季ぶりの優勝を決めました。

エース斎藤を擁する早稲田の連

覇を止めたのは、やはり我らが明治で、我々OBも溜飲を下げることでできました。明治大学のアイデンティティは六大学野球で、校歌を斉唱することで培われます。我が校友会も神宮に集結して、母校の応援で盛り上がるうではありませんか。

催しのお知らせ

明治大学全国校友秋田大会

九月十四日(日) 十三時開式

秋田キャッスルホテル(放光の間)

第十一回ホームカミングデー

十月十九日(日) 九時

明治大学駿河台校舎

今年の招待は昭和三十三年、昭和四十三年、昭和五十三年、昭和六十三年、平成十年卒業の校友です。その他、柏地域支部の催しとして、秋にゴルフ大会、一月に新春の集いを計画しています。

訃報

去る平成二十年一月五日、本会会員の山田寛様が亡くなりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。